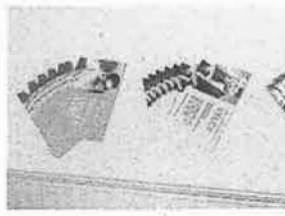
特集

事業拡大

AccurioPr

長尺印刷・スジ入れに

凹凸のある用紙にも方面


名刺などもインライン

監視結果をCSVファイル形式で出力、元データと比較することで抜けや重複を確認することができる。これにより、検品作業の負荷を低減、生産性向上に貢献する。

力を向上させ、名刺や招待状などの印刷において要求される高い質感や表現力の拡大を実現。加えて、長尺紙への自動両面印刷が従来機種よりも18%長い900mmまで

もう一方への絶えず連続した積載が可能。これら機能により、従来の人が介在する作業を大幅に削減した大量ボリューム印刷が可能となる。

シリーズ

アフターコロナへの挑戦

「紙製マスクケース」（「抗菌うちわ」取扱い開始）

ニヨド印刷

オリジナルノート作成の専門サイト「まるまるノート」を運営するニヨド印刷㈱（高知県吾川郡いの町、御庄康隆社長）は、印刷会社としての技術とノウハウを活かし、「快適で衛生的な生活」と「環境保全」に貢献するための様々な活動を展開している。同社は今回、ウイズコロナ・アフターコロナ時代に対応する新製品として、使い捨てタイプの紙製マスク入れ「マスクポケット」、厚紙を使用した「マスクケース」、骨部分にも抗菌剤を配合した「抗菌うちわ」を取扱い開始。9月2日～4日に東京ビッグサイトで開催される「第12回販促EXPO」、9月9日～11日にインテックス大阪で開催される「第1回関西販促EXPO」、11月26日～28日に東京ビッグサイトで開催される「エコプロ2020（第22回）」に出展し、「まるまるノート」とともに紹介する。

同社は「印刷技術×もの づくりの力」で豊かな社会の実現に向けて活動する企業。「オリジナルの紙ものづくりに思いを込めて」をテーマに、オリジナルノート作成専門サイト「まるまるノート」をはじめ、メモやスケッチブック、一筆箋、カレンダーなど、オリジナルで作成できる紙製品を開発している。

抗菌うちわを手に御庄社長。手前は紙製マスクケースと卓上カレンダー

「快適で衛生的な生活」や「マスクケース」は、と「環境保全」を実現するための取り組みとして、御庄社長はまず「ディスポーザブル（使い捨て）でも環境負荷が少ない紙でものを作っていくことが我々の使命であると認識している」と話す。とくに今回、取扱いを開始した「マスクポケット」の「マスクケース」は、紙製であるためプラスチック素材と比べて衛生的にも環境保全的にも優れており、印刷会社としての技術とノウハウを最大限に活用した商品と言えそうだ。

東京・大阪の販促EXPO出展

テーマは「快適で衛生的な生活」と「環境保全」

紙素材の優位性を強調。厚紙使用の「紙製マスクケース」に手ごたえ

「ATMの横には紙幣を入れる封筒が積んであるが、これをマスク入れとして使っている人がいるようだ」（御庄社長）

この話を聞いた御庄社長は、さっそく使い捨ての「マスクポケット」と厚紙製の「マスクケース」をクライアントに提案。公衆衛生にも役立つノベルティであることをアピールしたところ、採用に向けて検討が進んでいるという。

「自社のロゴマークが印刷されたものが使い捨てにされるのは厳しいということで、厚紙製の方で話が進んだ。さらにFSC森林認証紙を使用することで、SDGsの推進につながると理解してもらった。プラスチック素材のマスクケースではしんどかったかも知れない」（御庄社長）

新商品の「紙製マスクケース」は、強度のある厚紙を使用しており、ニス引き加工によって光沢性・耐磨性・撥水性を持たせているほか、SIA（抗菌製品技術協議会）登録の抗菌インキ「におわなインキ」をケースの表面と中面にニスコーティングしている。インキには銀イオンを配合しているため、防臭効果があるだけでなく、細菌の繁殖を抑制できる。リサイクルが可能で、可燃ごみとしても捨てやすいなど環境に優しいこと、付着ウイルスの生存期間が短く、衛生的に利用できるなどの特長を持つ。

一方、使い捨てタイプの「マスクポケット」についても、スマートかつ衛生的にマスクを仮置きすることができ、マスクを一時保存するだけでなく、デザインも自由なため販促アイテムとしても使用できる。紙製マスクケースと同様に「におわなインキ」を使用しているため、安心・安全に使用できる。紙製であると菌インキ「におわなインキ」をニスコーティングしている。化粧品やデオドラントスプレーなどで使用される銀イオンを抗菌剤として使用しており、細菌が銀イオンを取り込むと増殖（細胞分裂）できなくなる。効果は半永久的に持続する。

御庄社長は「抗菌効果という強みだけでなく、使い捨てタイプと「〝へたる〟まで使える」（御庄社長）厚紙タイプの2種類があるため、顧客のニーズに合わせて提案することができる。

紙だけでなく、骨部分にも抗菌剤を配合した「抗菌うちわ」

同社は今回、ポリうちわの骨部分に抗菌／防カビ性に強い「抗菌金属イオン」の無機系抗菌剤（抗菌剤バクテキラー）を配合した「抗菌うちわ」の取扱いを開始した。

これも紙製マスクケースと同様、貼紙部分に抗菌剤バクテキラーを配合した「抗菌うちわ」の取扱いを開始した。

紙以外の素材、紙と木を融合させた商品開発も視野に

印刷会社として培ってきた技術とノウハウを生かし、同社は様々な紙製商品アイテムを開発してきた。しかし昨今の情勢下、「テーマに掲げる〝衛生的な生活と環境保全〟に貢献できるものであれば、紙以外の素材や、紙と木を組み合わせた商品開発も考えていきたい」と御庄社長。すでにいくつかの商品構想もできあがっているようだ。

注目しているものの1つは、布製マスク用の「洗濯板」。御庄社長は「使い捨てマスクによる環境の悪化が懸念されている一方、布製マスクを使っている人が増えてきた。高知なら店先でも売られているし、近所のおばちゃんが手作りの布製マスクを売りに来ることもある。アパレルメーカーやスポーツブランドのマスクも続々と出てきた。リユースタイプの布製マスクを丁寧に洗えるアイテムとして提案できるのではないか」と話す。

また、紙と木を組み合わせた商品として「木製スタンド付きの卓上カレンダー」や「木の台座付きのメモ帳」などを検討しているという。

今後の経営戦略について御庄社長は、「正直なところ、まだまだ見通しが立たないが、その中でコロナ禍の影響を受けにくい商材も見えてきた。今後も新生活様式に受け入れられる商品アイテムを考え出し、ウイズコロナ・アフターコロナの時代を生き抜いていきたい」と話す。11月のエコプロでは、「快適で衛生的な生活」と「環境保全」に貢献するさらに新たな商品アイテムの登場が期待できそうだ。